

学級担任のまなざし 31

Okayama Prefectural Education Center

R2.7.20(Mon)

「ピンチをチャンスに」

初任の頃の出来事です。自分のクラスは、落ち着きがなく、子ども同士のトラブルが毎日起こっていました。トラブルが起きる度に、「またかあ。」とため息ばかりついていました。そのことを先輩教員に相談すると、「学校はたくさんの子どもが集まるところ。トラブルは起きて当たり前。そのトラブルから子どもやクラスが学んで成長していくことが大切。自分は、『ピンチをチャンスに』と考えるようにしているよ。」とアドバイスを受けました。

次の日の昼休み、またトラブルが起きました。今度は、自分のクラスのこうじくんと先輩のクラスのしんじくんのトラブルです。腹が立ったこうじくんは、石を投げてしんじくんの足に当ててけがをさせてしまったのです。

しんじくんのけがの処置の後、先輩はそれぞれから事情を聞いていきます。「まずはこうじくん。何が一番腹が立ったのか、教えてくれる?」「だって、しんじくんが仲間に入れてくれないのがずっと続いてて。それで腹が立って石を投げた。」「そうか。仲間に入れてもらえなくて、腹が立ったから石を投げてしまったんだね。」「次はしんじくん。今の話は本当?」「うん。でも、こうじくんはいつもルールを破って、自分勝手なことばかりするからおもしろくないんだ。だから・・・。」先輩は2人の気持ちを聞き、それぞれの気持ちに共感しながらも、「だめなことはだめ」ときちんとして指導していきます。そして、今度からはどのようにすればけんかをしないで済むかアドバイスをしました。私はその指導を横で見ている、そのあざやかさにびっくりしました。

『ピンチをチャンスに』それ以来この言葉は、私の大好きな言葉になりました。ピンチがあったときには、いつも思い出します。そして、子どもたち自身にこれからどうしたら良いか考えさせ、次につながる指導を心がけています。